

発生予察情報

特殊報第1号

平成20年3月7日
秋田県病害虫防除所

トルコギキョウえそ輪紋病の発生について

1. 病害虫名：トルコギキョウえそ輪紋病 *Iris yellow spot virus* (I Y S V)

2. 発生作物：トルコギキョウ、アルストロメリア、ヘメロカリス、ネギ、タマネギ

3. 発生の経過

平成19年8月に、県内2カ所でトルコギキョウの葉に不定形のえそ斑点、えそ輪紋等の症状が確認された(図-1)。症状からウイルス病の疑いがあったことから遺伝子診断(RT-PCR法)した結果、本県では未確認のIYSVによるえそ輪紋病であることが確認された。

1カ所では、隣接ほ場の家庭菜園に作付けされているアルストロメリア、ヘメロカリス、タマネギ(図-2)でもえそ斑等のウイルス症状が認められIYSVの感染が確認された。また、もう1カ所では隣接する家庭菜園のネギでもIYSVによるえそ斑の発生が確認された。

4. 本病の伝染経路と病徴

IYSVはTSWV(トマト黄化えそウイルス)やINSV(インパチェンスネクロティックスポットウイルス)と同じTospovirus属のウイルスでネギアザミウマによって媒介される。ただし、ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマでは媒介されない。一度ウイルスを獲得したネギアザミウマは永続的にウイルスを伝搬する。汁液伝染はするが種子伝染、土壌伝染はしないと考えられる。

罹病作物の病徴はトルコギキョウではINSVに類似し、ネギやニラではボトリチス属菌による葉枯れ症状や黒斑病の初期症状に類似しており、病徴からの診断は難しい。

5. 寄主植物(海外の報告含む)

- 1) リンドウ科：トルコギキョウ
- 2) アルストロメリア科：アルストロメリア
- 3) ユリ科：ネギ、ニラ、タマネギ、リーキ、ブルビネ
- 4) ヒガンバナ科：アマリリス、ユーチャリス、クンシラン
- 5) アヤメ科：ダッチアイリス
- 6) ヒユ科：センニチコウ
- 7) アカザ科：ハウレンソウ

6. 防除対策

- 1) ウイルスの伝搬はネギアザミウマによって行われるので、媒介虫の防除を行う(表-1)。
- 2) 罹病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取り、ビニール袋に密封するなど保毒虫が逃げ出さないように持ち出して、土中に埋めるか焼却するなど適切に処分する。
- 3) ほ場内及び周辺の雑草はネギアザミウマの繁殖場所となるので、施設内外の除草を徹底する。
- 4) トルコギキョウ等の施設では、開口部に防虫網や寒冷紗等を張り(0.8mm目合以下)、施設内

へのネギアザミウマの侵入を防ぐ。

表 - 1 アザミウマ類の防除薬剤（平成20年度版 農作物病害虫・雑草防除基準より抜粋）

対象作物	商品名	希釈倍数・使用量	使用時期	各成分の総使用回数	
花き類・観葉植物	オルトラン粒剤	3～6kg/10a	発生初期	5回以内	
	オルトラン水和剤	1000～1500倍			
	アクタラ顆粒水溶剤 ^{*1}	1000倍		6回以内	
	トルコギキョウ	ジェイエース粒剤	1～2g/株		5回以内
		スカウトフロアブル	2000倍		
		アディオフロアブル ^{*2}	1500倍		6回以内
		コテツフロアブル ^{*1}	2000倍	発生初期	2回以内
ネギ	ジメトエート粒剤	3～6kg/10a	定植時	3回以内	
	アグロスリン乳剤	2000倍	収穫7日前まで	5回以内	
	オンコルマイクロカプセル	1000～2000倍	収穫14日前まで	2回以内 ^{*3}	
	ガゼットMCフロアブル	1000倍		2回以内 ^{*4}	
	タマネギ	ダイアジノン乳剤40	700～1200倍	収穫21日前まで	2回以内
		1000～1200倍			
	マラソン乳剤	2000～3000倍	収穫7日前まで	6回以内	

*1：ミカンキイロアザミウマでの登録

*2：ヒラズハナアザミウマでの登録

*3：粒剤による定植時の土壌混和及び生育期の株元散布は合計1回以内、散布は1回以内

*4：マイクロカプセル剤は1回以内、粒剤の播種時の土壌混和は1回以内、粒剤の定植時の土壌混和は1回以内

7. 疑わしい症状がみられた場合

本病と疑われる症状がみられた場合は、罹病株を病害虫防除所か農業試験場に持ち込み、診断を受ける。



図 - 1 トルコギキョウの病徴



図 - 2 タマネギの病徴

【問い合わせ先】

秋田県病害虫防除所 018(860)3421
 秋田県農林水産技術センター農業試験場 018(881)3326
 掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>